

ベトナム戦争と枯れ葉剤ダイオキシン

ベトナム政府は8月10日を「枯れ葉剤被害者支援の日」と制定し、発がん物質ダイオキシンの枯れ葉剤被害者の救済と化学兵器枯れ葉剤の残虐さを世界に訴えています。私たちはこの呼びかけに応えて、2011年から毎年同じ日にベトナム・ダイオキシンデー・ニッポンの集会を開催してきました。

1961年8月10日、アメリカ合衆国はケネディ大統領の命令でベトナムに枯れ葉剤の空中散布を開始しました。1971年に中止されるまでの10年間、この枯れ葉剤は撒き続けられ、数百万のベトナム人と参戦した米国をはじめ韓国、ニュージーランド、オーストラリア各国の兵士たちが浴びました。白血病、皮膚がんなど多くの死者を出しました。第1級の発がん物質であるダイオキシンは、遺伝子の損傷を引き起こすとされ、数多くの先天障害児が今でも生まれています。

沖縄から枯れ葉剤はベトナムに持ち込まれていた

ベトナム戦争当時、沖縄に大量の枯れ葉剤が持ち込まれ、そこで訓練を行いそこからベトナムに枯葉剤を持ち出し大量に散布したことは多くの証言から明らかになっています。しかし日米両政府は沖縄に枯れ葉剤が「持ち込まれた記録がない」ことを理由に、沖縄に枯れ葉剤があったことを頑なに否定し続けています。そのため被害者への救済措置も行われておりません。2013年6月13日、旧嘉手納飛行場の返還跡地に造られた沖縄市サッカー場で、枯れ葉剤製造会社の印章があるものを含むドラム缶が大量に発見されました。これまでの調査の結果、ドラム缶は合計100本となり、発がん物質ダイオキシンを含む「複合汚染」という汚染の性質が明らかにされました。

今回のダイオキシンデーは、この問題で調査を続けられてきた3名の方のシンポジウムを行います。

ジョン・ミッチェル (Jon Mitchell)

1974年ウェールズ生まれ。ジャーナリスト。

1998年に来日して以来、平和運動、人権問題、軍隊による汚染の問題などを取材。沖縄の枯れ葉剤報道は『ジャパン・タイムズ』、『沖縄タイムス』、『琉球新報』の各紙で採り上げられ、また、その取材を元に製作された琉球朝日放送のTVドキュメンタリ番組「枯れ葉剤を浴びた島：ベトナムと沖縄・元米軍人の証言」(2012年)は、日本民間放送連盟賞

テレビ報道番組 優秀賞を受賞している。明治学院大学国際平和研究所研究員。

河村雅美 (Kawamura Masami)

1965年生れ。博士(社会学)。沖縄・生物多様性市民ネットワークディレクター。琉球大学、沖縄国際大学非常勤講師。専門は、東南アジア研究、国際社会学、環境社会学。枯れ葉剤など米軍基地汚染問題などを中心に市民の立場から活動。論文：「ダム建設という『開発パッケージ』」(『開発の時間 開発の空間』東京大学出版会2006)「高度成長と東南アジア」(『高度成長の時代』大月書店2010)

中村悟郎 (Nakamura Goro)

1940年生まれ。フォト・ジャーナリスト。前・岐阜大学地域科学部教授、日本ジャーナリスト会議代表委員、日本写真家協会会員。1970年以降ベトナム戦争を取材。枯れ葉剤による人体影響を告発・報道。代表作に『新版・母は枯れ葉剤を浴びた』(岩波現代文庫(旧新潮文庫))『戦場の枯れ葉剤』(岩波書店)など。当実行委員会副実行委員長。

またシンポジウムの前に、琉球朝日放送が制作した

映画『枯れ葉剤を浴びた島：ベトナムと沖縄・元米軍人の証言』を上映します。

チケット販売のご案内

チケットは金券です。下記の振込先に郵便振替でお申込みをお願いします。

入金確認後、自宅など御指定先にチケットを郵送させていただきます。

前売り券 2,000円、当日券 2,200円(学生1,000円)

申込み振込先 郵便振替 00180-4-292090 宮原千佳子